



医療法人 社団輔仁会

太田川病院

訪問看護ステーション通信

2019年春号

広島市東区戸坂山根 1 丁目24-20

TEL: 082-220-1551

FAX: 082-220-5551

新元号が「令和」となった新緑の候、皆様のおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご高配を承り厚くお礼申し上げます。

さて、平成30年11月から訪問看護ステーションに新たに言語聴覚士と理学療法士が加わり、看護師8名セラピスト3名事務員1名総勢12名のスタッフでよりよい在宅生活がおくれるよう支援させて頂いております。近年、在宅で看とりされる方もがん末期の方だけでなく、高齢者の老衰という方も増えて参りました。その中で、「最期まで口から食べられる」ことが重要となってきました。その人らしさを最期まで支援できるステーションでありたいと今後とも日々精進して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

所長: 的場聡子

在宅生活において、適切な栄養を摂り、日常生活を過ごすことは大切なことです。しかし、高齢になると食べるための機能低下が生じやすく、また認知機能面の低下などにより食べることへの意欲低下を生じていくこともあります。どの利用者様もご家族の方も「いつまでも口から食べて元気になりたい、なって欲しい」と思う気持ちに変わりはありません。

その中で私たちは「最期まで口から食べる」「その人らしい最後を過ごす」ことを利用者様とご家族の方の思いに耳を傾け支援していきたいと思っています

言語聴覚士: 山田那々恵

最期まで口から食べることへの支援 「食べる力をみる」

現在の食べる力を評価します

食べる場面の観察

- ・姿勢
- ・食物形態の確認
- ・食物の取り込みの様子
- ・むせの有無 など

嚥下評価

- ・水のみテスト
- ・フードテスト
- ・反復唾液嚥下テスト

アドバイス

- ・現在の嚥下能力の説明
- ・姿勢
- ・食物形態
- ・一口量
- ・口腔ケア など



～言語聴覚士の関わった事例～

訪問看護師からの協力要請で摂食嚥下機能の評価とアドバイスとして関わる。Aさんは自力で体を動かすことやスプーンを持つことはできず、ご家族がゼリー状やミキサー状の食品、トロミがついた水分を介助にて摂取していたが徐々に摂取量が減少。訪問看護師に同行し嚥下評価を実施。その結果をご家族に説明。栄養のためではなく「美味しい？喉がうるおった？」など食べる時に声をかけて会話を行うことを目的に食べていってはどうかとアドバイスを行う。ご家族は、食べる事が難しく、無理に食べることは負担であると理解され、「栄養を摂らなければならない」から「無理がないレベルで一口ずつ食べる」へ気持ちが切り替わり看取りへの戸惑いが少し消え、それから数日後に旅立たれる。

食べることを様々な面からサポートしていきたいと思えます！

